

## 【未定稿】

○郡山りょう君 立憲・社民・無所属、郡山りょうでございます。皆様よろしくお願ひいたします。

実は、昨日、厚労委員会で七月の参議院選挙当選後初めての質問ということで、まあ二日連続ということで慣れているかなと思つたら、今生まれたての子牛のように足ががくがくしておりますが、どうぞ、小野田大臣、松本大臣、よろしくお願ひいたします。あと、委員会の皆様もお願ひいたします。

私なんですが、元々物づくり、自動車部品メーカーの製造の現場で働いていた物づくりの現場出身であり、また労働組合で活動をしていた、労働組合、中小のものづくりのJ A Mと、あとは鉄鋼ですね、あと重工、そして非鉄、そして建設、四業種から成る基幹労連からも応援をいただいているところの出身でございます。

私は、やはり現場で働いてきたということで、やっぱり働くというところを重要視しております。

まさにデジタルも、宇宙産業を含めて、成長産業は現場で働く人たちで成り立つてると私は思つております。ですので、その働くことについて、それぞれの、小野田大臣、松本大臣に働くことへの定義や御所見についてまずお伺いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○国務大臣（松本尚君） ありがとうございます。私も大学卒業して三十何年ももう働いているん

ですけれども、まあ働くことの定義というのはなかなか難しうございますけれども、定義はさておいて、それについての所見だけは述べさせていただきたいと思います。

何のために働くかということだと思いますけど、

まず幾つか考えらるると思います。時として生活の糧のために働くということもございましょう。

あるいは、時として社会貢献のために働くと、社会づくり、国づくりのために働くということもあると思いますし、また時として無償の献身というところでも働く意味がそこにあるのかと思います。

私は医師として仕事してまいりましたので、まさにこの生活の糧でもございましたし、患者さんのために身を粉にして働いたときもございましたので、私の経験からすると、今言つたような三つが大きく分けられるかなと。その上で、これらを統合したものが働くことではなかろうかというふうに思つております。

ありがとうございます。

○国務大臣（小野田紀美君） 定義についてはやはり厚生労働省とかそつちなかなと思うのでお答えしづらいんですけども、先生、二十分しかないお時間で、どう、短く言つた方がいいですか。

（発言する者あり）

○委員長（松下新平君） ちょっと待つて。指名しますから。

○郡山りょう君 濟みません。

また同じ失敗を繰り返してしまいました。また指名されていないのに答えるという。

端的で大丈夫でございます。

○国務大臣（小野田紀美君） 私にとつて働くというのは人生だと思います。

○郡山りょう君 ありがとうございます。

昨日の厚労委員会でも申し上げたんですが、働く語源というのは、諸説あるんですが、はたを樂にする、やはり周りを幸せにするということがございます。なので、松本大臣、小野田大臣おっしゃいます。なほ、やつていただいたことは、まさに周囲を樂にする、はたを幸せにするような、そういうミッションで今いろいろ活動されているのかなと思って、それはもう私も全く同感でございます。

その働くことに関して、成長産業を支えているのは先ほど人と申し上げたんですが、やはり技術だけじゃなくて、そこの職場に対する投資、働きやすくなる環境整備も成長を後押しする原動力、エンジンになると思うんですね。

そこで、小野田大臣にお伺いしたいと思います。ちょっとと今回の委員会とは毛色は違うんですが、小野田大臣所管の宇宙政策の現場について、現場を見られたことがあるか、あれば、現場を見た感想、所感をお伺いできればと思います。お願ひいたします。

○委員長（松下新平君） ちょっと待つて。指名します。

【未定稿】

○国務大臣（小野田紀美君）大臣に就任して十日後に、早速、衛星の測位を行う日本独自の準天頂衛星システム「みちびき」を製造している三菱電機の工場を視察させていただきました。その際開発、製造現場の幹部始め若手技術者の方々と意見交換をさせていただきました。米国を始め他国と日本の衛星開発環境の違いであるとか、AIを中心とするデジタル技術、新規技術の現場への導入の可能性もそうですし、あと、将来の我が国と宇宙産業を支えていく人材の育成確保、これ、まさに働く現場のこととも含めていろいろなお話を伺つたところです。

間その職場で働きたいと思つてもらえる、そういう職場環境づくりにも努めているというふうに伺いました。

引き続き、労働環境については厚労省ですけれども、ただその関係省庁ともしつかり連携をしながら、物づくりの現場の人材育成と職場環境の整備の推進というのは私としてもしつかり取り組んでまいりたいと思つています。

○郡山りよう君 小野田大臣、力強い御答弁あります。

引き続き、現場の方々の声にしつかり耳を傾けていきたいと思っています。

○郡山りょう君 ありがとうございます。

その中で、支えている物づくりの人材育成のことも聞かれたと思うんですけど、特に、技術人材の重要性と働く環境の整備の必要、重要性に対する見解、小野田大臣の見解をお願いいたします。

も人材育成等もちろん重要であると認識をしてい  
ます。

先ほど申し上げた三菱電機の視察でも、若手技術者に業務を通じた学びの機会を提供する等、高度な技術力を必要とする宇宙分野の人材を育成しているということとほかに、こうした人材が長い

実は、安全衛生法上では人数に対し便器が何台つて、いうところはあつて、満たしてはいるんですが、足下の現地の環境の状況というのはなかなかその法律では捉えることができないし、宇宙政策の最先端の技術に対し、現場の方は決して最先端の施設の環境とは言えない状況なんですね。

思うんですね。その中で、そういうふた環境整備も必要じゃないかと私は思つております。

実は、安全衛生法上では人数に対し便器が何台っていうところはあって、満たしてはいるんですけど

レの、まあ本当古くて、その中で女性のエンジニアとかも現地に派遣されて活躍をしていると。今後、発射場の利用、利活用って今後増えていくと思うんですね。その中で、そういった環境整備も必要じゃないかと私は思つております。

思うんですね。その中で、そういうふた環境整備も必要じゃないかと私は思つております。

実は、安全衛生法上では人数に対し便器が何台っていうところはあって、満たしてはいるんですけど

ですが、足下の現地の環境の状況というのはなかなかその法律では捉えることができないし、宇宙政策の最先端の技術に対しても、現場の方は決して最先端の施設の環境とは言えない状況なんですね。

是非、一度現場を見ていただき、実は私も見に行きたいんですが、そちらの方に、技術、育成だけではなく、足下の職場環境の方にも投資をしていただきますよう、やはり宇宙政策の司令塔なので、是非投げかけをお願いできればと思いますが、大臣、いかがでしようか。

○国務大臣（小野田紀美君） その打ち上げの現場も可能であれば急ぎ視察をさせていただきたいとは思うんですけども、ちょっと前の所管になりますが、前、防衛大臣政務官をしていたときも、現地に行つたときには抜き打ちでＶＩＰ用じやないトイレを使わせてもらつて、トイレの故障がないかとか、そういうそのやつぱり現場の方たちがいかに働く環境が整えられているかというところを、その投資がどうしても違うところを優先され、その方々の環境が二の次にされていくということは良くないというふうに個人的には思つていたので、そこは、見に行く暁には、見に行けたときにはしっかりと拝見していきたいと思つています。

○郡山りょう君 是非、期待しております、よろしくお願ひいたします。  
さて、次は、デジタル庁の施策加速推進についてお伺いしていきたいと思います。

さて、次は、デジタル庁の施策加速推進についてお伺いしていきたいと思います。

私、先ほど言つたように、物づくりの現場で働いていた物づくり出身でございます。デジタル庁

【未定稿】

においては、直接的な中小企業向けのデジタル化に向けた取組や補助金というのは直接はないんですが、間接的にはその現場を支えていると言つても過言ではないと思つております。

ちなみに、日本の労働生産性は、OECD三十二か国中、時間当たりが二十九位、そして一人当たり三十二位と決して高くはございません。また一方で、物づくりの製造業の労働生産性は三十四か国十九位で、何とか個人でそれぞれ技能を持っている方が改善等を重ね踏ん張つているような状況だと言えます。

まず、物づくり、製造業、中小企業のそうした状況をデジタル庁としてどのように受け止めていくのか、まず松本大臣の見解をお伺いします。お

○国務大臣（松本尚君） ありがとうございます。  
物づくりについての御質問ですけれども、我が  
国は物を作つて大きくなつてきた国だというふう  
に思つております。それは多分、委員も同じ考え  
ではないかと思いますが、物づくりは国や社会の  
基盤でござりますから、これからもしっかりと物  
を作つていける国にしなきやいけないというふう  
に思ひます。

その上で、この労働力不足が直面する中で、物づくりを含むあらゆる産業の現場において生成AIやデジタルの力というのを活用していくことが

必要ですし、それを支えるのが我々デジタル庁の大きな役目だというふうに認識をしています。

上げていくのか、人手不足を解消するのかというところが大きな壁になっています。

これ、あまたある、先ほど大臣がおっしゃった補助金、たくさんあるんですね。経産省であったり厚生労働省の人材育成や賃上げ助成とか、たくさんあるあまたの補助金の申請に関わる検索、修正、手続などの一元化により、運用側と利用する側の負担も軽減される。特に、やはり

中小企業の皆様は、その補助金申請というのは、実は、ある社長とお会いして、探しづらい、書類が多い、手続も給付も時間が掛かるという打ち上げがございましたので、やっぱりそういうた簡素化というか時間を短縮することができて、その人手不足、会社自体、事業所自体の労働生産性を上

## 【未定稿】

がることができるということで、非常に効果は大きいかと思つております。

あと、年末調整、今まさに時期に入るんですけど、これも、マイナポータルとGビズを連携できればもっと、個人も事業所も、そして政府の方も、国税含めて短縮できるのではないかと思つています。

実は、経理とか庶務担当の方たちが毎回工場に足を運んで、書き方が分からぬ、書き方間違つているという手続、物すごく工数掛かっているんですね。そういう現場も見てきました。で、その方たちだけ何かそういう税的なものの知識が上がつていて、我々はなかなか税的な知識というのは上がつていかないというところの課題もあるんですが、実は、令和八年三月にアルファ版のリースに向けて、今各省庁に対して靴底を減らしながら足を運び、導入に向けたお願いをしていると聞いているところでござります。

しかしながら、現状のマイナポータルのように毎回カードを読み取らなければいけない手続、e-Tax そうなんですね。私も活用しているんですけど、何回もカードを読み取つてやつているような状況もあると思います。ある中小企業を支援している中小企業診断士も、手間が掛かってしまうば様々なサービスがあつても活用しなくなるという御意見もいたいたんですね。全体を見据えたアーキテクトではなくては利便性向上につながらない

いですし、結果、双方に余計なコストや時間の負担が生じてしまうことも想定されると思います。

更にこの利便向上に向け、これらのサービスの改革と実装をより一層加速する考えがあるのかを大臣にお伺いしたいと思います。

○国務大臣（松本尚君） ありがとうございます。

今委員御指摘のいろんな様々な指摘があつて、あとアイデアもいただきましたけれども、全て我々もその問題点については把握をしているところでございます。これから一つ一つまだ加速をしていかなきやいけませんし、まずは、このGビズポータルのアルファ版をしつかりと各省庁に使用をお願いをして、そこから仕事を始めていきたいというふうに思つています。

委員の御指摘はしつかり承りたいと思います。ありがとうございます。

○郡山りょう君 ありがとうございます。

是非進めて、あとは、なかなかデジタル化に付いていけない方の、今移行期だと思いますので、そこも忘れずにカバーをしていきながら、私も一緒に取り組んでいくような議論を重ねていきたいたしたということです。

このことから、私どもの内規でございますデジタル庁における物品等の契約に係る指名停止等措置要領、こちらに基づきまして、九月の二十六日より四か月間の指名停止措置を講じたものでございます。

以上でございます。

次に、ちょっとと、ここからちょっと重い案件なんですが、指名停止処分の事案についてデジタル庁の皆さんにお伺いしたいと思います。

○政府参考人（三浦明君） 措置の内容といたし

止処分の事案があつたということでございますが、約二百億円の随意契約の規模であると伺つています。具体的に、公表日だつたりとか中身についてを伺いたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○政府参考人（三浦明君） お答え申し上げます。

本年令和七年の九月二十六日に当庁が公表した指名停止につきまして御説明を申し上げたいと思います。

この度、アクセンチュア社が、いわゆるマイナポータルのシステムに関する契約の履行に際しまして、再委託などの申請が契約で必要とされるということを認識しつつも、デジタル庁の承認を得ず、A社に再委託を行うなどにより、事実を偽つて業務を遂行していたと、いうことが判明をいたしたということです。

このことから、私どもの内規でございますデジタル庁における物品等の契約に係る指名停止等措置要領、こちらに基づきまして、九月の二十六日より四か月間の指名停止措置を講じたものでございます。

## 【未定稿】

ましては、指名停止四か月というものでござります。

○郡山りょう君 どのような経緯で違反に気付いたのか、あとは、受発注業務の具体的な内容は、恐らくマイナポータル、八千人利用しているオンライン行政サービスの中のインターフェースだと伺っておりますが、当該の業務の現状はどうなのか、あとは無断で委託したため個人情報などのセキュリティ等のリスク等はあるのかを端的に御説明いただきたいと思います。

○政府参考人（三浦明君） 委員御指摘のとおり、当該業務と申しますのはマイナポータルの改修に係るものでございました。具体的には、例えば引っ越し越しですとかパスポートの機能追加をしたものでございます。

現状といたしまして、あつ、この発覚の経緯でございますが、外部から連絡がありまして確認をしたというところでございます。

現状は、再発防止に関しましてアクセンチュア社と交渉いたしまして、再発防止措置を講ずるよう指示をして対応いただいているということになつております。

○郡山りょう君 そもそも今回、二百億円って結構な規模だと思うんですね。さつきのGビズポータルは一億円の予算に対して、物すごく大きい内容の中でこういったことが起つたということ

で、これ、よく言われるベンダーロックインの状況から、結局、随意契約、まあほかにも公募できるんですが、ほかに競争相手が出ないぐらいの規模が大きくなっている、そこしか持っていないような状況になってしまったためのこうした案件じやないかと思うんですが、今後も必要なのか、続けるのか、お願いいたします。

○政府参考人（三浦明君） ありがとうございます。

議員御指摘のベンダーロックインではないかと

いう点に関しまして、私どもも競争性を持たせた形での契約には心掛けているところでございます。

また、特にマイナポータルに関して申し上げますと、年末から年始にかけて大きなシステム更改予定をしております。その中でベンダーロックイン解消につながるような方策を講じていきた

いと思っておりますし、さらに、ほかのベンダーからも聴取を行いまして、改善に取り組んでまいりたいというふうに思っております。

○郡山りょう君 時間がないのでこれで締めますけど、やはりベンダーロックインを行わないようになるためには、御府の方でやっぱりアーキテクトや技術を一定持つておくべきなんじやないかと思うんですね。

是非、そうしないと、結局ベンダーロックイン起つると保守費用も言いようで膨大になつてしま

う、やはり、国の財源もやっぱり限りがありますし、我々の負担、国民の負担を減らすためにも、是非御府の方で技術とか持っていたく人材育成をしていただきますようにお願い申し上げて、質問を終わらせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。